

○議 事 日 程

平成30年7月3日（火）午後1時開会

平成30年度第1回守口市まち・ひと・しごと創生委員会

○出 席 委 員 （12名）

委員長	眞 鍋	昇 委員
	山 口 行 一	委員
	藤 田 智 子	委員
	山 田 和 利	委員
	林 謙 一 郎	委員
	小 西 雅 晴	委員
	嶺 山 扇 花	委員
	井 後 紗 代	委員
	工 藤 順 子	委員
	川 上 博 文	委員
	吉 岡 典 昭	委員
	宮 本 欽 司	委員

○事務局

企 画 財 政 部 部 長	工 藤 恵 司
企 画 財 政 部 都 市 経 営 戦 略 監	瀬 戸 隆 之
企 画 財 政 部 次 長	尾 崎 剛
企 画 課 課 長 代 長	鈴 木 将 巳
企 画 課 主 任	平 祐 徳

~~~~~

◇ 午後1時00分 開会

○事務局 それでは定刻となりましたので、第1回守口市まち・ひと・しごと創生委員会を開催したいと存じます。

委員の皆様方におかれましては、公私何かと御多忙の中、本日ここに御参集賜りましてまことにありがとうございます。

私は当委員会の事務局を務めさせていただいております、企画財政部次長の尾崎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

早速ではございますが、本日第1回ということでございまして、本日の議事に入ります前に、開催に当たりまして西端市長より御挨拶をさせていただきます。市長、よろしくお祈いします。

○西端勝樹市長 改めまして皆さん、こんにちは。ただいま御紹介をいただきました市長の西端でございます。

第1回守口市まち・ひと・しごと創生委員会の開催に当たりまして一言御挨拶を申し上げます。

平素は市政の各般にわたり、格別の御理解と御協力を賜り厚く御礼を申し上げます。また、皆様方には本委員会をお願い申し上げましたところ、快く御快諾をいただき本日は公私何かと御多忙中にもかかわらず御出席を賜りましたこと、心から感謝を申し上げる次第でございます。

平成28年3月に策定いたしました守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の期間も折り返し地点を過ぎ、残り2カ年となりました。本市ではこれまでも「もりぐち改革ビジョン（案）」に基づく行財政改革を進めながら子育て支援の大幅な拡充や教育環境の充実などを積極的に進めてまいりました。ここ最近の守口市の人口推移を見ますと総合人口が微増しており、特に就学前のお子さんと20歳以内の人口が顕著に増加傾向を示しています。これは昨年度から実施しております幼児教育・保育の完全無償化や、守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げた取り組みを着実に進めてきた効果ではないかと思っております。今後も引き続き、守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略による取り組みを加速度的に推進し、子育て世代が安心して子育てができ、また全ての市民の皆さんに安全に暮らしていただけるような魅力ある

まちづくりを委員の皆様と一緒に取り組んでまいりたいと考えております。  
委員の皆様方には幅広い知識や経験を存分に発揮していただき、今後の守口市の発展にお力添えをいただきますよう、心からお願いを申し上げます、はなはだ簡単ではございますが開会に当たりましての御挨拶とさせていただきます。  
どうぞ、よろしく願いをいたします。

○事務局 本日は第1回目の委員会でございますので、委員の皆様方の御紹介をさせていただきます。

(各委員紹介)

○事務局 なお、摂南大学経営学部経営情報学科長鶴坂貴恵委員、またパナソニック株式会社総務部企画助成課課長大森康二委員、株式会社日本政策金融公庫守口支店長兼事業総括谷本直貴委員につきましては、本日欠席の御連絡をいただいておりますので、あわせて御報告させていただきます。

委員の皆様方への委嘱状でございますが、まことに失礼ながらお手元に置かせていただいておりますので、よろしく願いを申し上げます。

次に、事務局の紹介をさせていただきます。

(事務局紹介)

○事務局 本日委員会の委員長選出までの間、議事は企画財政部長を仮委員長として進めさせていただきたいと存じますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

○仮委員長

委員長選出までの仮委員長を務めさせていただきます、企画財政部長の工藤でございます。よろしく願いをいたします。

それでは議事に入ります前に、事務局より本日の出席委員数を報告させていただきます。

○事務局 御報告申し上げます。本日の委員の出席は15名中12名でございます。

○事務局 ただいま事務局より報告のありましたとおり、委員会条例第5条

第2項の規定に基づき定足数に達しておりますので、会議は成立をいたします。

それでは、次第に沿って進めてまいりたいと存じます。

議題1の委員長並びに副委員長の選出についてでございます。

委員長は守口市まち・ひと・しごと創生委員会条例第4条第1項に、委員の互選によることとなっておりますが、指名推選をすることでいかがでしょうか。

(異議なし)

○事務局 ありがとうございます。御異議がないようでございますので、指名推薦ということといたします。眞鍋委員に委員長をお願いできればと存じますが、皆様いかがでございましょうか。

(異議なし)

○事務局 御異議がないようでございますので、眞鍋委員に委員長をお願いすることといたします。委員長が選出をされましたので、委員長職を交代をさせていただきます。

○委員長 どうぞよろしく願いいたします。

それでは時間もそんなにたくさんありませんので、改めまして議事を進めさせていただきますと思います。

副委員長の選出につきましても、委員会条例により互選となっておりますが、指名推選させていただくということよろしいでしょうか。

(異議なし)

○委員長 御異議ございませんようですので、委員長のほうから山口委員に

副委員長をお願いしたいと思います。皆様いかがでしょうか。

(異議なし)

○委員長 ありがとうございます。それでは山口委員にはお忙しいところ恐縮ですが、副委員長をお願いするということをお願いしたいと思います。

○委員 議論の円滑な進行に向けて委員長を補佐させていただきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。

○委員長 どうもありがとうございます。

では、続きまして、委員会の運営につきまして。委員会は原則公開として、議事録につきましては重要な議論を尽くすために委員長、委員という表記をして個別の発言者氏名を伏せた形で作成いたします。議事録の確定は委員長、副委員長を除く出席委員の2名による署名が必要でございます。その後、公開させていただくということでよろしいでしょうか。

本日の署名委員ですが、藤田委員と山田委員をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

本日は傍聴の方がいらっしゃいませんので、このまま議事を継続いたします。傍聴者の方もいらっしゃることもございます。

それでは、各資料を見ていただきまして、議題2の報告についてお手元に配布させていただいております資料1に沿って事務局より報告を受けたいと思ひます。

○事務局 お手元資料1をごらんください。

現在、総合戦略においてKPI、いわゆる指標を設定しまして各取り組みを進めておるところでございます。

お手元の資料には、当初設定しましたKPI、指標ですね。こちらの数値が余り伸びていないもの、今回でしたら公募型の協働事業提案制度の実施件数について掲載しております。こちらなんですけど、この青い冊子、戦略のほうの43ページと合わせてごらんください。

43ページの上段に、重要業績評価指標KPIを掲載しまして、公募型協働提案制度による事業実施件数としております。こちら初年度が2件であって、31年には25件を目指しておるところでございます。

29年度実績では1事業となっております。こちら、現状の分析をさせていただきました。あくまでも行政としての視点といたしまして、課題は、制度が余り浸透していない可能性がある。やはりホームページ、広報誌と掲載しておるんですけどもなかなかそういう事業があると知らない方が多いのではないかという点と、その課題2つ目ですね。行政と協働の実施事業のみならず、地域団体とは単独で事業を実施しているケースもある。例えば地域のコミュニティ協議会ですとか、みずからの課題をみずからで解決しているというケースがあるんじゃないかという点が数値が伸び悩んでいる課題としております。

これから30年度の取り組みといたしまして、提案要件の緩和ですね。現在団体、5名以上の組織や団体でしかこの提案が行えないんですけども、これを個人ですとか学生などに緩和して新たな団体や人材を発掘を行いたいと思っております。さらに市内NPO法人ですとかに募集要項を送付したりですとか広報誌、ホームページ、FM放送を通じて周知の強化を行いたいと思っております。

また、実際この制度が何かとわかりにくい可能性もありますので、他市の取り組みですね。他市と同じようなこういった制度がありますので、その取り組みを成功事例として紹介して、より効果的な手法を用いたいと考えております。

今回、こちら委員会におきまして意見交換を行っていただいたものが、やはり行政と関わりのある団体はあるんですけども、新たな団体ですとか人材を発掘していきたいなと思っております。そういった新たな層にこういった制度を利用していただいて、協働で事業を実施していきたいと思っております。

また、若い世代に対する市民協働意識の醸成ということで、まさに若い世代が組織する団体でこういった制度を用いて守口の魅力ある事業に投資したいと思っております。

以上でございます。

○委員長 事務局のほうから補足の説明はございませんか。これでよろしいですか。

○事務局 補足の説明。

こちらの公募型協働事業提案制度の概要ですけれども、まずこちらの地域課題ですとか、新たな公共課題の解決、ひいては市の魅力の向上、定住の促進目的として、市民と行政が、また市民と市民が協働でまちづくりにかかわる事業を実施するための制度でございます。

現在こちらの提案の要件ですけれども、先ほど申しましたとおり、市民団体、非営利法人、事業所、こちら個人を除いております。また、5名以上の会員で構成されていることが前提となっております。加えて、その組織において運営に関する規則、仮則を定めていることが条件になってきております。

また、現在の提案件数ですけれども、初年度が平成26年度に実施しており、当初は13件の提案数がありました。そこから27年度は4件、28年度は2件、29年度は2件といった形になっております。

29年度の2件のうち実際に実施された事業が1件となっており、その事業の内容につきましては主なものが守口地区保護司会さんで行っておられます薬物乱用防止のシンポジウムを開催しております。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございました。

実はこの委員会、3年ほど前から組織しているんですけども、今回新たに委員になっていただいた先生方に、委員の方にちょっとよくわからない部分あるかと思ったんですけども、要は守口市は人口がこのままほっとくとだんだん減って行ってしまいます。それでできるだけ若い人、世代を中心にまた魅力を発信して一人でもふえてほしい。先ほど市長がおっしゃったように、幸いなことに偶然かもしれませんがもちょっとふえた。これをさらにブートアップしてふやしたい。そのときにこの資料1の一番左にあるように、一つは守口市、実はいろいろ魅力がたくさんあって、子供さんとか乳児とか子

供さんたちに対する財政的なお金の補助が充実しているとか、いろんなことを発信してみんなに知ってもらわないと、割合十分にその市外の人には伝わってない。市内の人にも十分じゃない部分もある。場合によっては市内に住んでいらっしゃるんだけど、お子さんができたのが一つのきっかけで外に出ていってしまう。そういう方もいらっしゃる。だから市内の人と市外の人に対してこういう点でほかと比べていいことがあるんだよということを発信したいということでこの資料1の一番左に基本目標で書いている守口市の魅力を高めて発信し、守口市を誇りに思う市民をふやしたいということと、もう一つは守口市の魅力に出会う機会をつくる。そういうふうな事業を市からもサポートいただいてやりたいということなんです。そのときに、いろいろとやってきて実績もあるんですけども、目指す値、平成31年になっていきますけどこれが25事業なんですけども、その左側の実績値H29を見ますと1事業なんです。だから、やっぱり目指す値っていうのは25とか非常にたくさんのいろんな方にそういうところをやっていただきたいというふうに思っているけどもなかなか難しいということで、先ほど一番右の現状分析の中ほどの平成30年度の取り組みを見ていただきたいんですけども、提案要件の緩和。要は物すごく大げさな団体じゃないとやっちゃだめよじゃなくて、極端に言う個人でもやりたい人にはやっていただこう。あるいは、若い学生さんたち、グループとかこういった方にもぜひ守口市の魅力を発信するというプロジェクトというか、そういうことをやっていただけないかというようなことを今提案したらどうでしょうということを今話しています。

あと、市内のNPO法人ですとかさまざまところに候補地とかそれからきょう局長が来ていただいているんですけどFM放送とかいろいろな媒体を通して呼びかけてもっと市民が盛り上がり自主的、それを行政がサポートするということを考えていこうというふうに思うんですけども、それにつきまして、事務局に対して質問があれば質問していただいてもいいですし、あるいは提案としてこうしたらどうなんだろうということを話していただけたら。

参加いただいた市民の方だけでなく、ほかの全ての委員の先生方、何か御意見があれば。あるいは事務局に対して何か質問がございましたらお願い



いします。丸投げのようであれですけど。

○委員 情報共有しておくという色合いが強いんですけども、こちらの公募型協働事業提案制度というのはいつごろ、年度ですね、いつごろ公募されてどういうふうに、形態でというか公示がされているとか、何かそのあたりを教えていただけるとありがたいです。

○事務局 こちらの制度ですけども、大体5月、6月ぐらいから公募を行ない、ホームページを通して広く周知しております。次に大体6月末までを大体の期限といたしております。そしてその後、募集のあったものを選定委員会にかけ、1次選考、2次選考と現在あるんですけども、1次選考がいわゆる書類審査になっております。2次選考が実際に提案された方のプレゼンテーションで最終的に採択をしております。その後、予算化を進めて、議会で予算審議を行ない、最終的に3月に予算が可決されれば4月からその事業をようやく動かせるといったところですよ。スパン見ましたら1年近くかかっておるといのも現状でございます。

以上でございます。

○委員 さらっと。1件当たりの上限の金額とかありますかでしょうか。

○事務局 そちらの事業の上限でございますけども、市の支出総額として上限が1,000万円となっております。この中で自由課題提案型と指定課題提案型がありまして、それぞれ大体500万円程度を目安として採択事業を決定しております。

○委員長 あの、決定費の使い方と言いますか、こういうことには使っていくと。大ざっぱでいいんですけど、こんなことはだめよ。

○事務局 対象外経費でだめなものとしたしまして、飲食にかかる費用、いわゆる食料費ですね。あと団体の経常的な経費が原則対象外の経費となっております。

その他対象経費といたしまして、人件費ですとかあと外部講師を呼んでいただく報酬、あとはそれにかかる交通費、あと、文具などの消耗品、あとはパンフレットをつくるにあたっての印刷製本費。また、イベント等会場の設営などを委託するための委託料、あとは会場借り上げ料、あとは広告料といったものが対象内の経費になっております。

○委員長 委員は守口市内で商店されていますが、そういう中で、例えばよく産業界と行政、あるいは市民という連携をとって盛り上げていく、そういうことは今まで経験は。

○委員 そうですね。私の会社は氷とかドライアイスの販売させていただいてまして、個人的には市民の方から直接お話をさせていただいたのはあるんですけども、団体としては商工会議所青年部というところに所属させていただいております。その中でいろいろ駅前の方でイベントをやったりとか、あとは団体さんと絡んだりということをやっているんですけども、4年ほど前までは駅前のカナディアンスクエアでB級グルメグランプリがすごく盛り上がっていた時期だったんですけども、3年間ほどやらせていただきまして委員とも一緒に連携していただいてやらせていただいたんですけども、そのときはやっぱり相当、駅前にチラシも打ったんですけどやっぱり京阪百貨店さんに来られるお客さんなんか、何かにぎやかしているねっていう感じで来ていただいて、舞台なんか有名ダンスのスクールの生徒さんなんかも踊っていただいたりとかそういうふうな感じで大分盛り上がりまして、ちょっと3年ほど間があいてしまして、やっぱり守口、私らは守口だけじゃなくて守口門真商工会議所青年部ですけども、守口、門真を盛り上げるためにもう一度ちょっと祭りをやりたいねという話を今出しています、今駅前はかなり秋口は毎週のようにイベントを打たれてるんで、十分というところちょっと言い方おかしいんですけども、そこよりもまた違う場所でどうかなというような話も今出しています、秋の淀川がちょっと寒いんですけどもそこでキッズニアのような何かヨンボを使ったりとか高所作業車を呼んできたりとか、そんな感じで子供たちが楽しめるイベントができればというような企画を今している段階です。

それ以外にもいろいろちょっとさっき団体さんと絡ませていただいてというの言ってたんですけども、鳥人間コンテストに出てみようか。もちろん予選を通過しないと。

○委員長 琵琶湖のやつ。

○委員 そうです。琵琶湖のやつですね。予選通過しないと出られないんですけども、私ども団体というのは全国に各市にありまして、全部の市がある

わけじゃないんですけども420ほどありまして、福岡県の大川市というところが木工のまちなんですけども、一時期に比べて5分の1ぐらいの需要しかない。相当木工が今減っているということで何か盛り上げたいということで鳥人間コンテストに5年ほど前に出られた経緯があるんです。その中でテレビで本当は優勝とかを狙うのもありなんでしょうけど、木工のまちなんで、完全に木でつくった飛行機を飛ばされまして、500メートルぐらい飛ばないと優勝、漕ぐ部門とグライダー部門がありまして、グライダー部門ありましてグライダー部門では500メートルぐらい飛ばないと優勝できないんですけど、70メートルぐらいしか飛ばなかったんですけども、すごくアピールには成功されまして、そのあともやっぱり需要というか木工のまちというようなあり方はしていたみたい。うちとしても、来年の3月に予選を通過して来年の7月8月に本選出ようねという計画何ですけども、その中で何か守口門真をアピールできるようなことをやっていこうと。その中で今摂南大学さんの機械工学科の方とコラボレーションさせていただいて、毎月会議の中でどういう特色を出したらいいとか、どういうふうな感じでいけば予選を通過するかということを考えています。その予選通過というのが設計図だけなんですけども、ただ飛ぶから予選、飛びそうな設計図が上から10チームとかではなくて、どうしてもテレビなんでテレビ的におもしろいバックグラウンドがあるとか何か今までやっぱりどうしても大学さんが出てたりとか企業さんが出ていたということが多かったんで、大学さんとうちみたいな団体がコラボというのがあんまりないんじゃないかということでそれで推してみようかというような感じで今出る方向で頑張ってます。

○委員長 僕はそのころちょうど守口に住んでなかったんでB級グルメなんか、それ系は結構全国で盛り上がっていましたよね。

○委員 はい。

○委員長 ここも今お話聞いたら結構盛り上がっていた。それが中断した理由っていうのはあったんですか。

○委員 中断はB級グルメグランプリがどうこうとかいうよりうちの内部的な問題もありまして、たまたま30周年事業と合致するような状態で、こっちもやらなあかん、あっちもやらなあかんっていうようなことになりまして、

30周年事業のほうにちょっと重きを置いてしまった結果どっちもでは難しいなということで国際大学さんのほうで何でも鑑定団のほうやらせていただいたんですけど。

○委員長 何かそうみたい。

○委員 そうです。それが30周年事業で、ちょっとやっぱりテレビとかも絡んでくるんで、いったん中断するとまた2年目でもう一度復活っていうのは難しいような経緯もあったんで、ちょっと時を経て今年復活させようかというように動きにはなっております。

○委員長 なるほど。ありがとうございます。

ほかに何か。特に市民の方は何か言いたい放題で、別に責任とらんで思ったことを。家庭のストレス発散でもいいですから言ってみてください。特に若い人もたまたまいらっしゃるんですけど、こんなことしてくれたらおもしろいなっていうのが。できる・できないは関係なく言ってみていただいたら。どうでしょうか。

○委員 ずっと守口市で住んでいるんですけど、あんまり若い世代が集まって一つのイベントがあるみたいなのあんまりなくて、守口のだんじりとか以外あんまり集まらないんで、若い世代、学生とか若い世代が集まる何かおもしろいイベントを考えたいなと思います。

○委員長 結構ムーブ21ですとか、あそこで毎週主にクラシック関係の何かずっと継続されてますよね、あのプラネタリウムの。あんなのはどうなんでしょう。

○委員 よくムーブに行くんですけど、あんまり若い方が座って聞いてるっていうのはあんまり見かけなくて。

○委員長 それはそこで演奏している音楽のタイプによるんですか。そういうことでもないですか。

○委員 多分そうだと思います。ムーブ自体は皆さん若い人も勉強しに来たりしてるんで、もしそういう若い世代に人気のある人がたまに来たりしたらもしかしたらみんな来るかもしれないなと思います。

○委員長 今、多分僕の理解だと大体毎週土曜日ぐらいを原則にずっとやられていると思うんですけど、例えば市民の方でほかの曜日でこういうこと自

分が主催したいとか、そういう方はいらっしゃるんですか。そこまではやらない。あの会場使ってもいいよっていったらやってみたいという人はいない。例えばですけどね。

今、おっしゃってくれたように、企業とか市民の方が中心になって盛り上がりやるというのもまずは重要だと思うんですけどね。今ちょっとムーブ21の話ですけど、これはどっちかという行政側が準備していらっしゃるって感じだったんですけど、両方必要なんだろうけど盛り上げていくためには。先ほど、ある程度しっかりした組織がやるということでやったけども、どうも個人ぐらいでもいいよということにしないとなかなか盛り上がりかないのかなというのは行政サイドで考えておられるんですけど、そういった当たり、お一人ずついいですか。お願いします。

○委員　うちの娘が中学生で、個人でなかなかそういうイベントをたてたりとかそういう集まりがやっぱり主婦の層とかいわゆるママ友の中でもそういう話までなかなか出たりはしないですね。だから、もしそういうイベントを使うんだったら学校のやっぱり役員さんを絡めて人を募ってとかいうので決めていかないとなかなかどうしていいのかも私たちもどういうことをしてどう進めていってとかいうのも全然わからないので、そういうちょっと携わってる方が先陣切っていただく、リーダーになっていただいてその話を聞いてそれについていくっていう方法しかちょっと私たちの中では考えがつかなくて。B級グルメとかさっきおっしゃっていたのは、市民からしたらぜひやってほしいなって、そういうイベントは。よく大阪とかまち中でも肉フェスとかまちによっては何とかバル、門真とかでもありますよね、何とかバル、守口バル、そういうのでチケットを500円で何店舗か。そういうのはどんどんやっていただいたら、そういうのだったら私ら一市民として参加できるなと思って、そういうのぜひ進めていってほしいなと思いました。

○委員長　ありがとうございました。　どうですか。

○委員　はい。私はもともとここが地元じゃなくて、まだここ守口に住んで3年ぐらいなので、逆に自分が住んでいた地元よりもいろんな何かそういうB級グルメだとかそういうイベントがすごく多いなっていう印象が逆にあったので、今回こういう会議があってよりそういう若い世代の人たちとかに発

信していくっていうので自分もちょっと何か携われたらなっていうのはあるんですけど、ただ何をどうしたらっていうのはちょっと漠然とし過ぎててちょっとまだまとまってないような感じなんですけど、自分も今子供を2人育ててるのでそういう子供向けの何かもっと何かそういうイベントとかがいろんな面で何かこうできたらいいなっていう、ほんとに漠然としたものしかちょっとないんですけど、そういうふうには思ってます。

○委員長 委員はちょっとB級グルメとかんでたとか。イベントについてどうですか。

○委員 はい。そうですね。守口はやはり他市とかに比べてイベントはやはり多いのかなというふうには感じます。逆に多過ぎて、自分たちもやってるので駅前でフリーマーケットをやるとか、そういったライブであるとか数種類ほど毎月とは言わないですけども昨年も年に5回ぐらいしたんですけどもやらせていただいている、ちょっと正直同じようなやはりイベントがやや多過ぎてちょっと飽きてきてるのかな、市民の皆さんはやや飽きてきているのかなというイメージは少しもってます。やっぱそれよりもやはりこういう女性とかいかしてもっと集客力のあるイベントに注力していったほうがいいのかというふうにはちょっと最近考えているところなんですけれども。

イベント多いのもいいんですけども、やや多過ぎると来る人もまあまあ毎週のようにはなかなかあっていうところもあっていうところはややあるのかなというふうには思っています。

○委員長 そのあたりのバランスといたら難しい。

○委員 そうですね。

○委員 主催する人が多分ばらばらではあるんで、毎月おなじ人が主催してたらいろいろ趣旨かえてやると思うんですけど、団体にもお金に限りがあるんで、今月はAっていう団体が舞台である程度ダンスのにぎやかしをして、またBの団体もダンスやりながら飲食っていう、ほぼほぼ、やっぱり目を引くっていったら舞台で何か必要。じゃあ手っ取り早くっていったらちょっと言葉悪いですけどダンスやってもらって太鼓やってもらってみたい、そういうことがやっぱり多くなってしまいます。特に秋口何か一番天候がいいんで毎週のようにっていうことがあると見に来る人も分散されるのかなって

う気はします。

○委員長 地方創生のコンシェルジュって。何か。

○委員 ちょっとまだ具体的にこの件については思い浮かばなかったんですけど、実は私どもは今週の日曜日ですけど出会いのサンセットクルーズということで、実は枚方のギヤの裏から京阪さんと御協力いただいてひまわりいうて実は婚活を実は私どもでやったんです。われわれは婚活やるのは何でやったかといいますと、実はほかの北河内が私どものエリアで包括連携も組んでいただいているんですけど、ある市から一緒に婚活事業をお願いできませんかというような提案がありまして、これは当然やっぱり若い世代に移住、定住を目的としたもんなんですけど、市さんと一緒にやるにはかなりいろんなハードルがあって難しいというか、まず我々にノウハウがないもので、実はわが社のお客さんで一度まずはうちで試験的にやってみようということにさせていただくことにしたんです。ちなみに女性25人、男性25人で50人で一度やってみようとしています。年齢は結構20代から50代半ばぐらいまでおられます。こんなようなところで実は取り組んで、市さんとやる場合はやっぱりこの婚活ってやっぱり結構身元保証というか、余り身元がはっきりしてない方が出てこられるとやっぱりあとあとトラブルになったりすることもあるので、我々は地域の事業者さんの従業員であったり、それから経営者の後継ぎさんですね、そのような方で少し婚期が恵まれてないような方があればそのような方を中心に一応とりあえずやってみようということにやらせていただくことにしました。これも実はこの枚方スタートにはなっていないんですけど、船着き場の関係でそうなるんですけども、申し込みの内容はほぼ7市全域。当然守口市のお客様もおられまして、そのような中からこの出会いの場でストレートに婚活は出していないんですけども、出会いの場で将来縁結びがあってそれでこのエリアに住んでいただくというようなことをできればいいなということで、小さな一歩ですけどもとりあえず一定やってみよう。このことも実はしています。最近、私のほうの理事長もそれぞれ市さんがやっぱりシティプロモーションの中でやっぱり観光とそれからある資源をいかにうまく使って人に巡っていただくか。その観光という部分ではやっぱりインバウンド、観光イコールインバウンドだけではなくて当然インバウ

ンドの対象ですけども、他市からの人のめぐりというか、訪れていただいてこのエリアってやっぱり住むには自然もあり歴史文化もあり、交通のアクセスもいいというようなことで何とかターゲットはやっぱり大阪市でしょうけども、そこからきつと子育て世代に子育てするんであれば自然環境もよく、それからアクセスもよく、当然仕事場へのアクセスもよくて、そういうことを考えれば仕事をするエリアと住むエリア、ここらをうまくつなぐようなことともいうことで観光にも少し力を入れようとしてます。まずはこのエリアでバス1台か2台か一遍このエリアをめぐってもらうような地域の観光もこの11月ぐらいに予定をしております。そのようなところから、やっぱり地域を交流してもらう人と少しでもふやして行って何とかそれぞれある新たなものではなくてある歴史遺産であったり自然であったり、そんなようなところを触れてもらって地域を再確認してもらおうというようなことをやっていこうとしてます。この守口市さんのこの事業に手を挙げるほどものものはないですけども、我々は民間でできる範囲内で少しそんなようなところでお手伝いできればなというふうに考えています。

以上です。

○委員長 何かございますか。

○委員 私は現在、事業推進担当という部署に所属しています。京阪沿線の魅力を高めることにより、最終的には沿線に多くの人々に来てもらったり住んでもらうというのが最大のミッションなんですけども、具体的には、駅でイベントを行ったりもしています。この業務について2年が経ち、幾つかイベントを経験していますが、同じイベントを継続的にやっているとマンネリ化しない企画も必要ですし、リピーターの獲得も難しいです。京阪電車の駅でもポスターなどで周知するんですけども、それだけでは難しいところもあって、広告周知の仕方だけではなくて中身もどんどん新しいものを見つけていかないといけないなど日々日々苦勞しているところでございます。

○委員長 以前に何度かお世話になっている大阪国際大学。これは守口市にあるんですけど、学生さんのボランティア活動というか、そういうのが就職とかに非常にやっぱり役に立つ。社会と触れ合っていない学生さん多い感じですけど、それで市民の方ともいろいろ教えていただきながら公園の管理とか、



そういうことを提案させていただいたことあって非常に地味な、イベントのように派手派手しくはないんですけども。

この委員会一番最初のころにいろいろと広く市民の方にアンケートとって。そのときに一つは何か夜道が暗いと。それから公園が何か怪しいとかそういうのもあったんですよね。なかなか、とは言いながら公園の管理って難しいのかなとはつくづく思うんですけども、例えば近所の昔だとおっちゃん、おばちゃんが勝手に花植えて、またそれを文句言う人が出てくるんですよね。公園を自分の私有地のように使っている。善意で実はお花を植えているんだけど、そうやると植えた人が何かやる気失うとか、何かその辺のだからコミュニティが崩壊しているとかそういうのもあるかと思うんですけども、そういうのもまちの雰囲気をよくするという取り組みも何か提案していただけたらいいんじゃないかと思うんですけども。イベントも何か派手派手しくていいんですけどね。また市民の方なんかこういうことがあるといいなというのは何かございますか。まちの子育て。例えば子育てしたいようなまちだったらこうだとか。実は守口市っていうのはそんなに犯罪率が高いまちではないんですけどね。何か怪しいおじちゃんがいると。怪しいおじちゃんって言ったら失礼だけど。特にコメントとかお考えでございせんか。

ここは一ついろんな団体の代表的な方がいまして、参加していただいていますので、また次の機会の、あるいはその途中でも結構ですので、何かこう団体からも提案していただいて市をアピールして、こんないいこともあるんだよとか、あるいはここをこうしたらもっとよくなるということをまた御意見いただけたら。

それでは次の議案3のほうに進めさせていただきます。

題3のほうですけども、うちの平成30年度の守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の重点取り組みということで、事前に配布させていただいている本題のとおりテーマを僕ぐらいの年寄りはまだもう切り捨てていただいて、若い世代による地域活性化の取り組みということでお願いしたいと思います。

あと、事務局からそれにかかわる説明をお願いします。

○事務局　まち・ひと・しごと創生総合戦略の重点取り組みについてですけども、こちらで去年度から重点取り組みというものを設定してしまして、去

年度シティプロモーションとさせていただいて、今年度は若い世代による地域活性化の取り組みとさせていただいております。先ほどの協働事業提案制度と近いものになってしまうんですけども、まず若い世代が地域の活性化に興味をもってもらうにはどうしたらいいかですとか、若い世代がみずからがこの活性化の取り組みを行う上で行政とどういう支援ができるか、どのような取り組みがまた魅力的であるかといったところを御意見いただきたく思っております。

まだ若い世代は自主的に取り組みなどを行うことで若い世代がさらにまた若い世代を呼び込むといった流れがまさに創生の形ではないかなと考えております。ですので、今回こういった取り組みがいろいろ効果的かということと、若い世代が自主的に動くには行政として何ができるかというところを御意見頂戴したいと思っております。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

先ほどからの議論と結構重複するわけですけども、残念ながらあんまり若い世代が今ここにいないんですけど、今の、気分は若いという、お願いしたいと思うんですけども。 委員どう。

○委員 私は守口での勤務というのは初めてなんですが、近隣では枚方市に3年ほどおったこともあるんですけども、前任は西宮だったんですけども、今回守口市駅と1号線の間の道路が拡張されるということはちょっと聞いておるんですけども、そういったイメージが今私がぱっとみて、ちょっと古くなってきたかなというような、通りがそういうふうに感じますんで、ちょうどそのところに拡張工事がされるころにいわゆる何とか通りとかいうようにネオンサインじゃないですけども通りを明るくしてちょっとにぎやかになるような、そんなまちづくりっていうのをさせていただいたらありがたいなと思うんです。先ほどおっしゃられていたB級グルメ、それから鳥人間コンテストっていうのはすごく何人かが参加して最終的には守口市をアピールできる場としてはすごくいいかなと思いますんで、それもできたらやりたいなと思います。

前任の私西宮にいたときの尼崎という市がありまして、その市で市民が

例えばこの守口市のいわゆる名所を、これ私も守口市のいいところというのは全く分からなくてここへきて3カ月、4カ月たってますけども、そういった市民が写真を撮ったりしてそれを尼崎市がカレンダーにして出してたっていうようなこともありましたんで、なかなかこれいいなと思って見ておったんですけども、若者だけではないんですけども、いろいろそういった市民にも参画していただけるし、そういったところもいいんじゃないかなと思っています。

私は個人的にすごく趣味をいっぱい持っていますので、鉄道も好きですので京阪電車もすごく接続っていうんですか、列車の接続がすごくパーフェクトだなと思うのはやっぱり守口市駅でうまく接続してるなというのがありますんで、そういった鉄道関係もちょっと私もいろいろ思い入れもありますんで、ちょっとずつ考えていけたらいいなと思って参加させていただきました。よろしくをお願いします。

○委員長 僕は個人的に守口市の方が中心になってフェイスブックで写真、おもしろいなかなか味があるいい写真だなと結構楽しんでみているんですけど、たまに何かえらい素人感があって僕は好きなんですけどね。御存じですか、市民の委員方。守口市のフェイスブックって御存じ。知らん。若い人はフェイスブックって見ないんだよね。そうでもない。

○委員 SNSはインスタグラムとかが今は、はやっていると思います。

○委員長 インスタグラムだけを見る。

○委員 何か学校で今ゆるキャラグランプリの企業とタイアップして企業のゆるキャラをもっと知名度上げようみたいなプロジェクトやって、りそさんが今1位なんですけど、私はちょっと関電さんとコラボしてて、関電さんのゆるキャラの認知度を上げようみたいな感じで、守口市にももり吉がいると思うんで、何かそれともっと何か認知度上げたらいいかなとちょっと今考えました。

○委員長 委員、どうなんですか。

○委員 ちょっと全然話違いますけども、私も1年ちょっと守口に来ているんですけども、やはり守口の名所とかほとんど知りませんし、ふだん、何ですかね、なかなか市民でさえ入れないようなところみたいなのがどっかある

のかなというのもよくわからないんですけども、以前奈良で仕事をしてるときに、それはりそなが中心に、りそなにもそういう枚方信金さんのような地域創生じゃないですけど、地元の活性化をやるセクションといかそういう担当者が大阪市中心、大阪府が中心なんですけどもいて、薬師寺さんと組んで薬師寺でコンサートをやったんですね。なので、それはりそなと薬師寺さんと奈良市さんの協力を得てやったんですけども、やはり来る人にもよったと思うんですけど、かなりの若い方も来ていただいて、それは目的は薬師寺といか奈良のアピールと奈良市という奈良市の観光資源のアピールとりそな銀行が奈良で一生懸命やっているんですよというアピールが趣旨なので、そのアピールの趣旨としては成功したということなんですけども、ここの総合戦略の中にも書いていますように、住みよいまちであるとか子育てしやすいまちっていうのを市民にアピールするのが市民もしくは市外の人にアピールするのが趣旨であるとするれば、各種イベントをやるっていうことも必要だと思うんですけども、そこでいかにその部分は無アイデアなんで申しわけないんですけど、いかにそういう住みやすいまちなんですとか、子育てにとか先ほど委員長おっしゃられたように安全なまちなんですとかっていうのをアピールするかっていう、二本立てっていうんですかね。まずは若い人といかターゲットとする人が集まるようなイベントをやる。例えばその一つとして先ほど言いましたようになかなか薬師寺でコンサートやるなんていう機会はないので、やはりというようにところが守口市内にあるのかないのがまず私わからないので何とも言えないんですけども、なかなか京阪鉄道の中入るわけにいかないと思いますし、そういう松下記念館の中でそういうイベントをやるというのができるのかどうかもわかりませんが、そういうふだん市民の方がなかなか入っていけないような場所でそういうことを市と一緒にやってやるっていうのがまず一つ何ですかね、集客という意味では効果的なのかなとってるのが一つと、その中で来てもらって楽しかったなで終わってたらこの委員会の意味があるのかなというふうにも思いますので、もう一つはそこで先ほど申し上げたといか皆さんがおっしゃっているような安全だとか住みよいまちであるとかっていうようなところをいかにアピールするかっていうことを二本立てといか別個の戦略として、しかも合わせて考

えていくことが必要なんじゃないかなと。そのために先ほどおっしゃったゆるキャラを使うというのも一つの手なのかもしれないなというふうに思います。

以上です。

**○委員長** 確かに今おっしゃったみたいに、インスタグラムなんかで非常にこうあっと思うような写真が何枚かあったら、ああ、守口っておもしろいなっていう発信にはなったんでしょうね。僕は獣医関係の仕事をずっとやっていたんですけども、旭川動物園のもうリタイアされたんですけど園長さんが昔から友達で、夜中に毎日じゃないですけど動物園をオープンして、それとかエサの準備をしてるバックヤードも見せてあげる。それで結構爆発的に、それまで倒産しそうだったのが元気になったとか、今おっしゃったようにそういうのが守口市の中にあってふつうは入れないようなところもしあればそういうところを何か毎日じゃないですけどたまに公開して何かイベントするというのもいいのかもしれないね。あるいは若い人にそういう写真パシパシとか。ほぼ下手くそな写真がおもしろいかもしれませんね。

ちょっと今最近記憶力がいいかげんで大阪の何だったか今宮かどっかのあの辺の商店街がちょっと前にポスターつくって、結構おもしろいポスターで、「早よ来んといてへんで」とかいうような、その店のおじいちゃんとかおばちゃんのが結構好きで見てたんですけども、ああいう発信力で、だんだんしょぼくなってきた商店街も元気になっていくんでしょうね。インスタグラムで市民記者ってお願いして、ちょっとお金サポートして発信してもらおうといいかもしれませんね。とんでもないもの発信されても困るからそこが難しい。

仕事っていう意味で委員、いかがですか。

**○委員** そうですね。ちょっと報道自身は何か日本全体で言えば割と東京集中、若者が東京志向が多いというのは結構報道はされています。それは現状ではやむを得ない背景もあるんですけど、私どもハローワーク、門真っていうことで一応門真市、守口市、それから大東市、四条畷市管轄にしてるんですけど、できる限り地元での就職活動を支援しようと。大阪の中では市内でお仕事をされる、ホワイトカラー層はどうしても市内が多いですけど、や

っぱり守口、特に物づくりを中心に事業展開されてるという、タミノという雑誌もつくり、雑誌というか冊子もつくられているようで、そういう企業さんたくさんあるのでオンリーワン企業ということで、その辺もちょっと私ども高校卒業予定者、もうちょっと面接ではないんですけど企業説明会というのを毎年、門真市の物づくりの社長さんと、ことしは守口の会社も2社ほど御参加いただきながらそういうちょっと地元での就職活動をしてもらおうというようなことも今度7月11日に一応そういう学校の先生に一応御案内を出させてもらって、今高校生できる限り地元の企業にも知ってもらおうというような取り組みもやっておるところなんですけども。

ただ、ちょっと一方ではそうやって東京集中とはいうものの、アンケートをとると何か今は地域限定社員、地域限定の正社員ということで全国規模の企業であればいろいろと転勤がひっついているんだけど、私はこのエリアで働きたいので多少待遇が違って地域限定社員を希望する若者が非常にふえているというような報道もあるので、できる限りそういう地元志向の大学生、高校生ができる限り地元でということのお手伝いを少しでもできたらなということで、いろいろちょっとスタッフとは知恵を絞りながら、とりあえず今は高校生をターゲットにそんなこととかさせていただいております。先ほど、おっしゃられたように、ちょっと単発的な大きなイベントごと、これは一時的に人を集めるということと、それから恒常的に人を集めるというのは事業としては全然別だけど目的は一つになるのかなというふうに思うので、守口を知っていただくためのイベントとしては単発的なものを数多くやるのか、僕はちょっと高槻の住民なんですけどジャズストリートというのが30年ぐらい続いているので通して、同じものでも長く続けていってそういうデカンショ祭り何かもそうなんだと思うけど、地域イコールイベントみたいなのがネーミングとしてインプットされるようなものを一つは大きな一時的に人を知ってもらおうようなイベントをやるのと、経常的にはどうなんでしょうか。先ほどちょっとママさんのっておっしゃられていて、3月ぐらいの新聞には非常に全国的に人口が減ってる中で人口が出ていく、入っていくというのを比較したときに、明石市なんかは医療費の助成制度が充実している。先ほど市長がおっしゃられたように、ここは割と全国でも多分初めてだったと

思うんですけど保育の無償化ということでやられて、多分そんなのが組み合わさって今これからのその子育て世代の人が守口にとりあえず住み始めるきっかけの一つにして、そこがずっと住み始めて仕事が地元にあるのが仕事とカップリングで需要もふえると、そういうふうな何か組み合わせができればいいのかなと思うんですけど、その保育の助成制度は僕も知ったんですけど、今医療費っていうのは守口はどうなんですかね。医療費の助成制度っていうのは。

**○事務局** 守口市における、いわゆるお子さんの医療助成制度につきまして、は中学校卒業までを所得制限なしで。これ、どこでもそうなんですけれども、毎回1医療機関行っていただきますと基本的には保険は3割負担ということになるんですけれども、それが1回当たり500円の上限で御負担いただいて、1医療機関あたり月々1,000円上限で、全体では毎月2,500円までの医療費の御負担で医療を受けていただけるという形になっております。ただ、全国的に言いますと近隣でも18歳までやられるところが出てきたり。ただ所得制限があるというような形の市もございますし、これはやはりいろいろ市によって特徴があるというのが今、おっしゃっている部分だと思います。

以上でございます。

**○委員** ありがとうございます。

いや、もしその辺が2つのカップリングで何か売り出されるようなことがあればまだ。僕はたまたまなんですけど新聞で保育の無償化が行われたときにたまたまハローワークにお越しになったお客さんの子供さんが寝屋川に引っ越したばかりなのよねっていうふうにおっしゃっていたんですよ。たまたまそれを知っていたらもしかしたら守口に引っ越していたかもしれんというようなこともあるので、もしかしたらそういうところを片一方で売り出しながらちょっと大きなイベントを何かすると知名度が増えて、知名度が増したときにそんなお母さんの子育て世代のことが知れ渡るといいなと、ちょっと感想としては思っています。僕らはそこから今度仕事へっていうところは僕のところにも僕らなりにアイデアをちょっと出し合いながら地元の事業主さんとちょっといろいろと御協力いただきながら進めていこうかなと思ってい

るんですけど、ちょっとイベントとその辺の社会保障制度の充実してるというのも何かすごく子育て世代を呼び込むネタにはなるのかなと、個人的にはちょっと思ってます。

以上です。

○委員長 やっぱ継続は力ですよ。ある程度ずっとやると周りからもそれを聞きに行こうかなと。

○委員 そうですね。何か新聞にも一時期その後できた経過みたいなのがちょっと書いてましたけども、やっぱり好きこそもの上手なれっていうのがあるんだと思うんですけどもそういうちょっとジャズ系のライブを小さいなりにずっと続けていたこれぐらいになってから始めてるということになるんで、ちょっとそういう音楽だけではないんでしょうけど、ちょっとそういったこだわりをもった方がおられればいいのかと思いますけど。

○委員 すみません。ちょっと質問なんですけど、守口市さんは就学前児童、先ほど保育の無償化があつてその年齢層がふえているということはその親、いうたら働く30代か40代ぐらいの世代がふえていると思うんですけども、転出入のアンケートってとられてるんですかね、市のほうで。どういう理由で転入されましたかとか、どういう理由で転出されますかとかそういう市民系というか、転出入される方のアンケートってとられています。

○事務局 住民票の異動の際にいわゆる窓口でということでしたら現在その理由までというのは恐らくお聞きしてないような状況で、今事務局のほうではその転入転出の事務で申し上げますと総合窓口課になるんですけども、そちらからこういった形でというのはお聞きしてないような状況でございます。

一方で総合戦略、今回の戦略つくらせていただくときには実際に住民基本台帳をベースにその出られた方に対して出られた理由であったり、そういったものは一応アンケート調査というのはしておるんですけども、ただそれを常に窓口で定例会の中で今時点、時点で終えるような形でやってるといようなことがございます。

○委員 実はほかの市のこういう会議に入らせていただいたときに、期間は4月5月どちらかといえば転出入が多い年度がわりのあたりですね。その



あたりで2カ月間あたりとられてる市がありまして、結構踏み込んでアンケートをとられてるところがありましたよね。結構そのアンケート集計を見させていただくと参考になることが多かったり、今まさに若い世代がそのエリアを何で選んでいるのかとか、何で選ばずに他市、他府県含めて行かれるときに何を目的に行かれるのかとか、そこまで聞かれてるわけですね。そういうところを聞き取る、調査すれば逆に言ったらそこに例えば守口に魅力を感じなかった何かがあるんであればそこを何ていうんですか、少し体制的に施策でもって変えていくということも結果としてこういう若い世代が入ってくる。入ってくれば最終的には地域の活性化につながる。今、若い世代とそれから就業前の子供さんの人口がふえているとこって守口市と実は交野市、この2市だと思うんですね。交野市はもう明らかにもう御存じのようにあそこのエリアっていうのは持ち家比率も高いですし、住環境もあと北河内のうちの6市に比べると少し住宅開発の規制も厳しくてまちなみもいい。なおかつ自然もそれから水もというようなところを売りにして、そこが功を博してふえてると思うんですけど、きっと守口市さんの場合は先ほどの保育の部分っていうのが大きいかと思います。そのようなところのうまく何て言うんですか、実際にその年代の人にアプローチかけて魅力もそれから課題もプラスもマイナスもそこである意味ひらっていくのが一番っていうか的を得てるのではなかろうかなと思います。きっとイベントとかそうやって先ほどの話からも出ていますけども、一時的に人が入っていただいてにぎわっていただくのもこれはこれで一ついいことやとは思いますが、最終的にはそこにやっぱり定住していただかないとなかなかプラス効果っていうのは薄いではなかろうかと思うんですね。そんなようなところ、ちょっと感じました。済みません。

○委員長 商工会議所なんかでは若手の方たちが特にこのままではだめなんじゃないかって取り組みとかそういうことは。

○委員 そうですね。もともと商工会議所の僕ら青年部なんですけど、商工会議所の下部団体として成立したんですけども、商工会議所自体ってのが提言のためにあったということを聞いていまして、この間NHKの五代さんか何かが出てたと思うんですが、イギリスからいろいろ言われて市民の声を吸

い上げてないといって商工会議所をつくってみんなこう思ってるっていうことあります。ということで、僕ら青年部も二、三年前からちょっと提言委員会というものを発足というのがちょっとふえてきてまして、守口、門真も本年度初めて提言委員会というものをつくりました。その中で守口門真どうすればいいのかなというような6月に委員会をしたんですけども、他府県でどんな取り組みしているかみたいなんもちょっとアンケートというかこんなあるでというのを教えてもらった中では、鳥取県が年2回環境庁が調査してる中で、地上から上に向かう光が一番少ないのが鳥取県らしいんですね。そこでマイナスのように思えるところを逆転の発想で商工会議所青年部が中心になって星取県っていう改名っていったらちょっとおかしいですけどそれでアピールしようということで、空に向かってのサーチライトの禁止であるとか、特に星の見えるきれいなところっていったら言い方きれいですけど、プライベートですね。環境保全地区としてあんまり入ってはいけないとかそういうふうにして、結局今まで鳥取っていうのは砂丘の中で通過して日帰りで行かれるお客さんが多かったところ泊まり、当然星を見るので泊まりになって爆発的に観光がふえまして、どこだったかな、札幌か何かもそういう星取県ビールみたいなん出したりとか、それのお金も入るようになったりとかっていうのがよその青年部では聞いているんですね。うちの中でどんな感じで持って行こうかと。最終的には今年じゃなくても何か守口市さん、門真市さん、あるいは本会に対して何か提言できるものをもっていきたいねというのは話をしたんですけども、どういう提言をするかというグループディスカッションした中であほな話もいっぱい出た中で、世代別のマンションみたいなのを作ったら今婚活というか出会いもふえるんじゃないかとか、あとはちょっと真面目そうな話の中ではシルバーカフェみたいなものをつくって、そこで年齢のいっておられる方がうまいことあつまってコミュニケーションとったりとか活力を生まれることによって医療費なんかも削減、元気になられて削減されるんじゃないかとかそんな意見も出たりっていうのも6つぐらいのテーブルの中で二、三個はちょっと真面目な意見も出たりっていうのがあったんですけども。だからそれを例えば鳥取県がそんだけ観光資源がないっていったらないですけど、そこを逆転して守口がどうすればいいかまでは

ちょっと至らなかったんですけども、文禄通津なんかもできて400年とかいう話も聞いていますし、東海道は五十三次って言われている中で実は五十七次で枚方なんかでも五六市って行って五十六次目なんで毎月日曜かな、ありますよね。

○委員長 それって結構京阪。

○委員 そうですね。今、東海道と京阪電車が並行して走っているということのうちではそれを沿線の観光PRに使っています。

○委員 そうですよね。何か秀吉がやったのを57番目の守口だったっていうのももっとPRしたり文禄堤をPRすれば資源がないわけでもないのかなという気はするんですけどね。

○委員長 大根もありますしね。

○委員 そうですね。守口大根、守口でつくってないっていう話も聞きますけど、小学校なんかでも長さを競うためにとか、三郷小学校ってちょっとなくなってしまいましたけどつくったりとかっていう話も聞きますし、そういう資源ゼロではないんで、あとはうまくチョイスして行って引っ張り上げ方かなという気はするんですけどもね。

○委員長 僕、実は四国の香川県の出身で、うどん県。この前も田舎に帰って話して、うどん県っていう名前は全国的に有名になったわいいんだけど、結局香川県っていう名前が全然わかってない。それはそれでいいだろう。でもなんか確かにそういう特徴があるとビジネスもふえて、やっぱり仕事がふえないと若い人が定住しないですね。今おっしゃったように非常にほんとは重要なところ。だんだん時間も進んできたんですけど、委員いかがですか。

○委員 そうですね。私はまちづくり関係の仕事をしているんですけども、行政の方が絡みながら市のブランドイメージをつくっていくってことっていうとまちなみ形成みたいなのがやっぱあると思うです。まちなみつくるのに大分と時間かかりますので、例えばですけど食事のイベントとか、要はまち、緑がいっぱいあるねとかっていうようなこと。緑って即座にできるわけじゃないので、そこら辺の市道の緑化みたいなとか、西宮市さんがそれこそまちと緑のまちづくりを考えられてリーダーを育成されまして、まちの景観を魅力的にしていってると思うんですけども、あればそういうまちのイン

フラをよくしていくようなイベントみたいなのも入れておいていただけるといいかなと思います。

○委員長　もう一度、どう思われます。

○委員　小学校のころに、小学校で何か近くに公園をつくってそこで花を植えたりして結構家の近くの公園はちょっと不気味なところが多かったんですけど、その公園はすごく開けているし自分がつくったみたいな感じで結構小学校の間でもそこで遊ぶことも多くなってたんで、そういうのもあったらいいかなと思います。

○委員長　そうですね。僕もそんなによく知っているわけじゃないんですけど、ただ、僕が今勤めてる大学の学生さんがちょっとかかわってるような公園とか見ると、やはり花を植えたりとか人が出入りしてると安全な感じになりますね。きれいって今。ほったらかしにすると何かわけのわかんないおっちゃんに来て勝手にたばこすってその辺にたばこが散っているとかね。そうするとだんだん子供も何か怪しい感じになって、最近そういう怪しい犯罪もふえています。そういうのはほんと確かにそうですね。そういう、私がやりますという人に何か資金援助ができたらいいかもしれないですね。

　お子さんのおられる方はどう思いますか。子供さん育てながら安全なというか、子育て。お金も重要なんでしょうけども、環境の、子供が育っていくときの環境っていうのは。

○委員　育っていく。そうですね。確かに先ほどから言われてるように公園とかでも雰囲気暗っぼい感じとかだとやっぱりちょっと近寄りがたい感じはありますし、遊具とかもあんまりないところとかだと子供が十分に楽しめないなと思うので、どうしてもそういう遊具が充実してる所とかにやっぱり行きたい、連れて行ってあげたいなとかというのはあるので、そういうのは感じますね。そのお金の面とかでもやっぱり無償化っていうのはすごいことをしてくれてるな、守口市ってすごく最初広報とかで見たときは、何かそのときは子供がいなかったのそこまで変な話自分にはまだ関係ないなっていうふうに思っていたんですけど、実際子供ができてこれから預けていく年代になっていくんですけども、やっぱり無償化ってすごくありがたいことで、友人とかとも話すと、そういう他府県とかにいる友人とかに言うとやっ

ぱりすごい魅力というからやましいって言うのをすごく言われるので、やっぱり子育て世代にとってはその辺のお金の面とかは一番大きいアピールポイントになるんだっていうのは今まさにすごく実感はしています。

○委員長 委員はいかがですか。

○委員 私もやっぱ10年ぐらい前に守口のほうに引っ越してきたんですけども、そのときのきっかけはマンションを買うのがたまたま守口で、後からそういう子育ての情報とかがついてきたんですけど、最初来た時は守口大したことなかったんです。子育て世代に対してそんなにいい条件がなくて、もともと摂津にいたんで摂津はそういうところはちょっと進んで、無償化っていう、医療費の無料っていうのはやっていましたし、守口に来てすぐのときは多分幼稚園だけ医療の無料でとかで、ちょっとずつ伸びてきて今中学校3年生までになってきたんですよ。だから後からついてきたことなんですけども、来てみてやっとなる。そこまで引っ越しするのに対してあそこはどこの医療費が何ぼやとか、こういう条件がそろっているとかいうところまではなかなか私の場合は見てこなかったんですよ。後からついてきたのがそういうことだったんですね。だから今はすごく中学校行ってるんで中学校まで伸びたらありがたくて、ほんともちろん18歳までとか伸ばしていただけたら一番子育てありがたいんですけども、そういうのをもっとアピールできたら私みたいに後からついてくるんじゃないかと、あそこそんなところがあるんやったらちょっと見に行ってみようかとか考えてみようかっていうのになってくると思うんで、そのアピールの仕方というかそういうのがどこを見てどこで情報を得るっていうのが難しいなと思って。

○委員長 京阪電車から見たら守口だけっていうわけにはいかんでしょう。

○委員 そうですね。

○委員長 京阪沿線。よく阪急沿線のイメージとか京阪沿線のイメージありますけど、そのあたりイメージアップっていう面で言うと守口だけじゃなくてこういうことっていうのは何か戦略的にお考えあるんでしょうか。

○委員 沿線のイメージというものはひとつの市で決まるものではなく、多くの行政が子育てに優しい市だとか、このような方針をつかわれて、市ごとの区別はつかなくなってきました。

- 委員長 ないですか。
- 委員 鉄道会社としては、子育てしやすいまちをつくっていくなどして沿線のイメージを高めて定住者を増やす必要もありますが、端から端まで電車に乗っていただけるインバウンド観光客への目も向け始めています。
- 委員長 端から端とは。淀屋橋から出町柳。  
長距離乗っているんです。
- 委員 ありがとうございます。ほかの鉄道会社も新たなサービスを提供しているので、競争も激しくなっています。
- 委員長 駅の周りの雰囲気っていうのもありますよね。これは京阪さんだけの問題じゃないでしょうけど。
- 委員 駅によってかなり違いはありますけどね。守口市は、買い物にも便利だし、大阪市内にも出やすいし、働く場もありますし、住みやすい都市の一つじゃないかと思います。
- 委員長 今の話題とちょっとずれちゃって恐縮ですけど、委員、お子さんがちょうど中学生ぐらいって。
- 委員 はい。中学2年生です。
- 委員長 僕はさっき申し上げたように田舎者なので、中学校が終わるまではパブリック、公立の学校っていうのはみんな給食だと思っていたんですよ。それが全国みんなそうなんだと思ってて、たまたまきっかけがあって大阪は中学校はやりたい放題だったって聞いて実はびっくりしたんです。それとは別に、たまたま自分が関係している分野で産婦人科関係の先生なんかで、最近都市部で中学校の給食がちゃんとしてないところが女の人の成長が悪くて、それが原因で出産のときに帝王切開するとか、あるいは場合によっては妊娠がうまくいかないとか。栄養学的に、要するに極端な言い方すると、アフリカの飢餓状態に近いような栄養状態の子供、お子さんが、いわゆる痩せたいから、いろいろな要因があるんでしょうけど、そのあたり何かどうなんでしょう。実際にお子さんたちは太り過ぎるほど食べるとかそういう意味じゃないですね。バランスが悪いっていうんでしょうね、栄養の。それで学校給食はまずいかもしれないけども、バランスは一応考えてつくられていますよね。

○委員 最初、私も絶対お弁当だと思っていて、中学校に通わせる前は。そしたら行ってみる、彼女に聞いてみると、一応給食とお弁当と両方選べますよだったんですけど、うちの娘ちょっと好き嫌いが個人的に多くて給食は、もう絶対嫌だと。小学校のときに6年間食べてきてもう給食だけは絶対嫌だっているというので。

○委員長 トラウマになっている。

○委員 そうなんです。ちょっと低学年のときに食べるのが遅くて、もうそれが嫌でそのプレッシャーが嫌やったみたいで、だから給食にいいイメージがどうしても。おいしいのはおいしいのがあったみたいで、何々は好き何々は好きって言うんですけど、中学校では結局ずっと今お弁当持たせているんで、中学校でどういう給食が出ているのか。試食会とかもやっているんですけども参加したことがないんでどういう味かとかどういうメニュー化とかまでは全然知らなくて、あとお弁当組と給食組は部屋も違うらしくって、だからお友達同士で何々ちゃんは給食やからあっちの部屋、お弁当は教室とかって行って、友達とそこで別れちゃうのもおかしいなと思いながら一応入れないって言ってた。給食はお金がかかっているんで入ってあげたりどうのがだめなのかなとか思ったり、そういうのがあるんで、みんなでもっと食べられたら、お友達同士でももっと昼食の時間が楽しくなるんじゃないかなと思ってすごい疑問にそこは思ったんですけど、結局別れちゃって食べないといけないんで。

○委員長 多分教育っていうのは非常に幅が広いんですよ、実際は。いわゆるお勉強も重要なんだけど、そういう生活習慣とか今までの。これをまたちょっと話を変な方向に行っちゃうんだけど、最近、箸がちゃんと使えない人がふえているとかいうの。やっぱりその辺で家庭で教育するべきかもしれないけど、ある程度学校でもちゃんと教えたほうがいいんじゃないかという意見を使う人もいますよね。私は何でもいいと思うんですけどね。箸がダメだったらスプーンで、タイの人みたいにスプーンで食べたらいいんだとかいってこの前言って。何かそういうイメージというか、特に子育て世代の方を呼びよせるような、お金が一番大きいのかもしれませんが、やっぱり公園もそうですし保育園の問題も。そういうことに市民のボランティア

的な方が手を挙げていただけるようなことを、そういうことを行政もサポートするっていう、市民の方が加わって、やっぱり自分たちの故郷をよく知ろうと。仮に外から住んでもそこで住めば故郷ですけど、そういうのもあっていいかなと思いますけど。

ほかに御意見ございます。

○委員　もう一ついいでしょうか。若い人も含めて、要は外から入ってきていただこうと思えばやっぱり住むところというのが必要になってくるんですね。この間大阪北部地震ということで枚方、高槻、茨木方面が非常に全国的に被害が出たということでいろいろなところから我々もお見舞いとかいただくんですけども、逆に地震、災害が起きてこのエリア、守口もきっと一緒やと思うんですけども空き家がふえていますよね。ああいう災害があったときにやっぱり空き家っていうのは災害には非常に弱いということと、近隣に非常に不安を与える。これを逆に我々としては実は我々枚方信用金庫としては空き家対策ということを事業の中で取り上げてやっているんですけども、その災害を逆手にとってやっぱり所有者の方にしたらそのエリア、このエリアで空き家をお持ちの方が他府県におられてこういう災害があつてどうなんやろう、隣近所に迷惑かけてないやろかとか屋根が落ちてないとか瓦が落ちてないとかきっと不安に思われてると思うんです。だから逆にこのチャンスに不要な空き家であれば早く処分していただく。流通させていただければきっとそういう若い世代も含めて物が停滞するんじゃなくて流通すれば入ってくるときに必ず居住空間が必要になってきますんで、そこにうまく供給できるかなということ、この災害を何とかうまくそういうふうに関個人の私有財産なんでもなかなか役所もそうやと思うんですけど、手を加えにくいけどもこういう災害をキーワードにその理解を求めるために何か活用していただけますか。何て言うか、流通させていただけませんかというような働きかけはしていただければきっとそれはタイミングとしてはいいのではなからうかと。新聞でもこの間枚方の空き家が2万何ぼというようなことで一番この近隣でとっている中で一番多い。でも人口が多い、世帯数が多いから多くて当たり前なんですけど、例えば高槻であるとかあと箕面とか、そのようなところは1万ぐらいな空き家なのに枚方は2万超えています。何か枚方空き家が多い



ように聞こえるんですけど、実は世帯数が多いから多いだけのことなんで、でもこれをうまく逆に利用できないかなということでも我々もそういう働きかけをしています。ですので、守口も全く無被害ということはなかったと思いますし、かなり私もそれこそ30年ほど前このエリアを若いときバイクで信用金庫ですので回ってたときのまちなみがまだたくさん残っているエリアが結構あります。そこらはかなり老朽化してますし空き家も多いように聞いてます。ですので、そのようなところでちょっと行政もアクションを起こしていただければ少しでも動くのではなかろうかと思しますので、ちょっと情報提供ということで、そのようなところをお願いできればと思います。

**○委員長** 何か、まとまりのない話をだらだらとやって、議長がよくないと思うんですけど、ほかに御意見とかお考えございませんか。

それと、初回ということもあってちょっと内容がよくわからないままに参加された委員の方もいらっしゃるかと思うんですけども、次回はぜひもう少し議論を深めて、途中でお願いしましたように、自分のこういう考えはどうだとか、あるいは周りの方に相談していただいて、こんなのはどうだろうということも次回は提案していただいて、さらに深めたいと思います。

それじゃあ一番最初にお願ひしましたように、署名委員も藤田委員と山田委員にお願ひしますので、またよろしくお願ひします。

では、今年度の当委員会の進め方につきまして事務局より説明をいただきたいと思ひます。

**○事務局** お配りしています資料2をごらんいただけますか。

まち・ひと・しごと創生総合戦略のスケジュールについて各案ということで、本日7月に1回目させていただいております。第2回目、第3回目を9月、11月を予定しておるところでございます。最後、重点取り組みについての具体的な取り組みの提案なんかをいただければ大変ありがたいと思っております。昨年ちょうどシティプロモーションをテーマに議論いただきましたワールドカフェ、守口ヤング・ミーティングということでさせていただきました。まさにそういったところを新しい集まりとして、できましたので、そういうとこにうまくアプローチして若い世代による活性化の取り組みということができたなと思っております。

以上でございます。

○委員長　このスケジュールの原案でございますので、何かこういうことをやっていたきたいとか御意見ございませんか。よろしいでしょうか。

そしたら、ただいまいただきました議論を踏まえた上で今年度のスケジュールとか日程につきましてはまた事務局と相談させていただいて皆さんに御相談させていただきたいと思います。よろしく申し上げます。できるだけたくさんの方が参加していただけるような日程を調整させていただけたらと思います。

本日の議事録の署名をお願いできますでしょうか。

きょうはここまでで閉会させていただきたい。どうもありがとうございました。

◇ 午後2時30分 閉会

~~~~~